

クアラルンプール市内およびその周辺での資料収集案内

坪井祐司・鈴木絢女・篠崎香織*

・文書館・図書館利用案内

(1) マレーシア国立文書館 : Arkib Negara Malaysia

マレーシア国立文書館は、植民地期から現在に至るまでの公文書を中心に、この地域に関する広範な記録を所蔵している。マレーシア国立文書館とは、本館と 8 つの分館等を持つ組織であり、国内各地にある分館はその地方に関する記録を所蔵しているが、本欄では最も多くの資料を蔵する本館の紹介を行いたい。

本館の所在地は Jalan Duta, 50568 KL で、空港行きのバス・ターミナルの近く、クアラルンプール北西郊外の官庁街 Duta 通りに位置し、中心部から車で 20 分ほどの場所にある。アクセスはよいとはいえず、公共交通機関を利用して行くのは難しい。かつては 1 時間に 1 本ほど Klang バス・ステーションからのバスがあったが、現在は朝 7 時前後および夕方 5 時前後にしかないようなので、それ以外の時間帯に行くためにはタクシーを利用するしかない(中心部から 8~10 リンギほど¹)。開館時間は曜日によって異なるので、事前にウェブサイト <http://www.arkib.gov.my/> で確認したほうがよい。

¹ 2004 年 3 月現在の運賃。2005 年 4 月にタクシー料金が値上げされ、最初の 2km が 2.00 リンギ、その後 200m もしくは 45 秒ごとに 10 センという以前の料金体系から、最初の 1km が 2.00 リンギ、150m ごとに 10 セン、あるいは最初の 2 分が 2.00 リンギでその後 45 秒ごとに 10 センという新しい体系に改められた。

外国人がこの文書館を利用するには、マレーシア政府の首相官房 (Jabatan Perdana Menteri) の経済企画庁 (Unit Perancang Ekonomi) 発行の調査許可証の取得が必要となる(許可がないと、入館はできるが資料閲覧はできない)。調査許可証の申請書類に文書館を利用することを明記しておけば、許可証を受け取る時に経済企画庁から文書館宛の紹介状をもらうことができる。それを文書館で提出すれば、1 年間有効の利用証を発行してもらえる。最初に利用するには職員がシステムの説明をしてくれるので、そのときに資料に関する情報も聞いておくとよい。

資料閲覧の流れは以下の通りである。入ってすぐの部屋は目録が集められた部屋になっており、そこで請求記号を調べてカウンターに申請する。資料の申請は、1 つ 1 つ書類を手で書く必要があり、やや煩雑である。資料の申請から受け取りまでは 1 時間ほどかかる。資料の申請は 1 回 5 点までであるが、前に申請した資料を返却する前に新たな資料を申請することができる。コピーおよびマイクロフィルムからのプリントは可能だが、やや高額(コピーが 1 枚 50 セン、マイクロが 1 枚 90 セン)である。

所蔵資料として、最も多くの割合を占めると思われるのが行政文書であり、連邦および州の行政機関ごとに分類されている。ほかにも、新聞、

* すべて東京大学大学院博士課程。

学校や企業などの各種団体に関する記録、王室に関する記録、個人書簡、地図などの資料がある。また、文書資料だけでなく、マイクロフィルム（海外の文書館から購入したものも含まれる）、音声記録、映像記録などさまざまな形態のものがある。

館内には多数の資料目録が備えられているが、それらは大きく2つに分けられる。第一に、一定期間内に文書館が受け入れた資料を網羅的に掲載した「受け入れリスト(Senarai Penerimaan)」である。文書館は、10年ごとにこの「受け入れリスト」を出版している。第二に、種別ごとの資料目録である。まず、新聞やマイクロフィルムのように資料の形態ごとに作成された目録がある。また、主に植民地期の行政文書のなかには、「ファイル」という形態の資料がある。これは、連邦、各州の行政府やその部局(土地局など)といった機関ごとに集積された文書がファイルとしてまとめられ、各々の文書にファイル番号が振られているものである。これらの資料は行政機関ごとに個別の目録が作成されており、それを参照する必要がある。検索方法としては、まず「受け入れリスト」で資料の全体像を把握し、そのあとで個別の目録にあたっていくのがよいであろう。加えて、文書館では州別、テーマ別などの形でさまざまな資料紹介を作成しており、目的に応じて参照できるようになっている。なお、最近では目録のオンライン化が進められており、一部の資料は館内のPCを通じて検索、申請ができる。まだ完全なものにはなっていないようだが、ウェブサイトにも検索システムが存在しており、今後もさらにデジタル化

が進められるものと思われる。(坪井)

(2) 国立図書館 : Perpustakaan Negara Malaysia

国立図書館は、官報、政府機関および一部民間企業の年報や刊行物、国内団体のニューズレター、一般書籍、雑誌などの閲覧サービスのほか、書籍の貸し出しも行っている。政府系の定期刊行物は独立以降のものが中心で、全ての年度がそろっているわけではない。

2階のマイクロフィルムカウンターでは、主に20世紀中葉以降の国内新聞のマイクロフィルム閲覧サービスを行っており、印刷は1枚1リングである。ただしマイクロフィルム・リーダーが3台しかないため、利用者の少ない午前中に行くことをお勧めする。1990年以降の New Straits Times を利用する場合は、キーワード検索ができる NSTP e-media が便利だ。

国立図書館の利用には会員証が必要である。1階の登録カウンターに申し込み用紙、パスポートのコピー、登録料1リングを提出すると、3年間有効の会員証が発行される。国立図書館のウェブサイト <http://www.pnm.my/> からオンライン登録をすると、一週間程度で登録が完了し、登録カウンターでの待ち時間を短縮できる。

所在地は、232, Jalan Tun Razak, 50572 KL。公共交通機関を利用する場合は、Putra LRT の Pasar Seni 駅の近くのセントラル・マーケット前のバス停から16番か20番のバスに乗り、Raja Muda Abdul Aziz 通りのペトロナス・ステーションのはず向かいにある Stesyen Petronas

のバス亭で下車。バス停を背に Tun Razak 通りを横断し、左方向に進んだところにある青い屋根の建物が国立図書館である。開館時間は火～金曜日が 10～19 時、土曜日が 9～19 時、日曜日が 10～17 時で、休館日は月曜日と祝日。(鈴木)

(3) 大蔵省図書館 : Perpustakaan Perbendaharaan Malaysia Putrajaya

大蔵省図書館では連邦政府および州政府の予算書と決算書、政府機関や民間企業の年報、法令集、官報等を閲覧することができる。他省庁や国営企業、民間企業などの年報は 90 年代以降のものが中心で、選択的にしか所蔵されていない。複写をする場合は、用紙を持参すれば無料。入り口のカウンターで所属機関からの紹介状がマレーシア国内の学生証を提示すれば利用できる。

交通公共機関で行く場合、KLIA Transit の Putrajaya 駅で下車し、バスを利用する。バスには経路番号がついているが、プトラジャヤのバスは状況により行き先を変えるので、乗る前に大蔵省まで行くか尋ねたほうがよい。大蔵省の建物の中央の入り口からエレベーターで 2 階に上る。開館時間は月～金曜日が 8 時～16 時 15 分、土曜日が 8 時～12 時 30 分。問い合わせ先は zulali@treasury.gov.my または library@treasury.gov.my。(鈴木)

(4) マラヤ大学の図書館

マラヤ大学(Universiti Malaya)はクアラルンプール市南西に位置する。所在地は 50603 KL

で、Putra LRT の Universiti 駅から 906-A 番のバスで約 5 分。

マラヤ大学中央図書館 : Perpustakaan Utama

学術書をはじめ、植民地期以降から現在までの新聞や政府文書のマイクロフィルムを閲覧することができる。入館には閲覧証(Kad Bacaan)が必要で、入り口の正面にある事務所に所属機関からの紹介状と写真を提出して作成してもらう。作成および 3 ヶ月間ごとに更新に 10 リンギかかる。この閲覧証はマラヤ大学の全ての図書館で使用できる。

開架式の書棚はあまり整理されておらず、目的の資料が見つからないこともある。マイクロフィルムを利用するには事務所で利用手続きをする。紙への複写も可能で、複写代は正規学生・職員は 1 枚 50 セン、一方閲覧証の使用者は 10 枚までは 1 枚でも 15 リンギ。

開館時間は月～金曜日が 8 時～22 時 30 分、土・日曜日が 8 時～16 時。休館日は祝日と第 1 土曜日。ウェブサイト <http://www.umlib.um.edu.my> も参照されたい。

ザアバ記念図書館 : Perpustakaan Peringatan Za'ba

政府刊行物、国内新聞記事の切り抜き、Za'ba コレクションをはじめとする個人コレクションなどが所蔵されている。独立以降の政府刊行物は、全ての年度が揃っているわけではないが、同じ建物の 5 階にある経済学部図書館の所蔵と

合わせればそれなりにそろそろ。開館時間は月～木曜日が 8 時 30 分～13 時 / 14～17 時、金曜日が 8 時 30 分～12 時 30 分 / 14 時 45 分～17 時、土曜日が 8 時 30 分～13 時。休館日は祝日・日曜日および第 1・第 3 土曜日。

法学部図書館 : Perpustakaan Undang-Undang

植民地期の立法議会から現代までの議事録、法令集、判例集などが所蔵されている。マラヤ大学の KL 側ゲートを入れてすぐ左側にあるレンガ造りの建物が法学部。開館時間は月～金曜日が 8 時 30 分～22 時 30 分、土曜日が 8 時 30 分～15 時 30 分、日曜日が 8 時～13 時。休館日は祝日と第 1 土曜日。(以上鈴木)

東アジア研究図書館 : Perpustakaan Pengajian Asia Timor

インド研究図書館 : Perpustakaan Pengajian India

ザバ図書館と同じ建物の 4 階に、東アジア言語の書籍・雑誌やタミル語書籍を所蔵した図書室がある。華語文献に関しては、マレーシアで発行された最近の学術書は一通り揃っている。開館時間は月～金曜日が 8 時 30 分～17 時、土曜日が 8 時 30 分～13 時。休館日は祝日・日曜日および第 1・第 3 土曜日。(篠崎)

(5)新紀元学院附属図書館

KTM Komuter の Kajang 駅の向かいにある新紀元学院(Kolej New Era)の附属図書館にも

華語書籍が揃っている。マラヤ大学で所蔵していない書籍がこちらで見つかることもある。ウェブサイトは <http://www.newera.edu.my/>。(篠崎)

(6)ニューストレイツタイムス社リソース・センター : NSTP Resource Centre

発刊以来の New Straits Times (The Straits Times)、Berita Harian、Malay Mail、Echo を、製本版、主題別にクリッピングされたファイル、マイクロフィッシュ、e-media などの形態で保存している。

所在地は 4F, Balai Berita, 31 Jalan Riong, 59100 KL で、Putra LRT の Abdullah Hukum 駅から徒歩圏内にある。入り口のカウンターでマレーシア国内の学生証が所属機関からの紹介状を提示する。利用は一時間につき、学生は 10 リンギ、その他は 20 リンギで、製本版の閲覧やコピー、マイクロフィッシュの印刷などのサービスに対してさらに課金される。開館時間は月～金曜日の 9～18 時。料金等の詳細についてはウェブサイト <http://www.nst.com.my/>を参照のこと。(鈴木)

(7)MTUC 資料室 : Malaysian Trades Union Congress Library

Wisma MTUC の 6 階にある資料室で、ニューズレターや労働問題に関する資料などが保存されている。所在地は、10-5, Jalan USJ 9/5T, 47620 Subang Jaya, Selangor。カウンターで所属機関からの紹介状を提示する。利用は無料で、複写代は 1 枚 10 リンギ。

開館時間は月～金曜日が7時45分～16時15分、土曜日が8時30分～12時30分だが、担当者の都合により開館時間であっても利用できないこともあるので、事前に問い合わせることをお勧めする。問合せ先は mtuclib@tm.net.my (Ms. Dewi)。(鈴木)

(8) 華社資料研究中心附属集賢図書館

集賢図書館は華社資料研究中心(Centre For Malaysian Chinese Studies)に付設されている。この図書館には、あらゆる分野にわたりテーマ別に細かく分類された新聞記事のスクラップがある。スクラップ記事は基本的に80年代以降の華語新聞、マレー語新聞、英語新聞を網羅しており、現代マレーシアの動向を振り返るうえで非常に有用である。ただし、テーマによっては華語新聞の記事しかない場合もある。マレーシア国内の華人組織(会館や中華総商会、教育機関など)の年報や会報、記念冊子の収集にも力が入っている。

利用の際には入館証が必要となる。入館証の作成費は学生の場合25リンギで、2年間有効。所在地はNo.1, Jalan Maharajalela, 50150 KL。スランゴール中華大会堂の建物の中にある。KLモノレールのMaharajalela駅から徒歩約1分。開館時間は月～金曜日が9～17時、土曜日が9～13時。問い合わせ先は、Tel: 603-22734035、Email : huazi@po.jaring.my。(篠崎)

. 工具類

・シンガポール、マレーシア、ブルネイで発行された新聞の蔵書機関リスト

Lim Pui Huen, with the assistance of Marion Southerwood, Katherine Hui, *Singapore, Malaysian and Brunei Newspapers: An International Union List*, Singapore: Institute of Southeast Asian Studies, 1992.

・国立文書館の利用・蔵書状況

黒田景子・水島司、1990年、「マレーシア国立文書館収蔵資料とその利用について」『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』69、17-27頁。

西尾寛治・坪井祐司、2002年、「マレーシアのジャウィ文献: 文献と研究工具」『上智アジア学』20、243-258頁。

・マラヤ大学の所蔵資料リスト

Sivachandralingam Sundara Raja and Joseph M Fernando, *Panduan Sumbah Sejarah di Universiti Malaya (A Guide to Historical Sources at the University of Malaya)*, Shah Alam, Selangor Darul Ehsan: Karisma Publications Sdn. Bhd., 2004.

. 書店案内

(1) マラヤ大学書籍部

KLで専門書の品揃えが最も充実しているのはマラヤ大学の書籍部であろう。注文や発送などのリクエストにも慣れている。書籍部はキャンパス中心部のプルダナシスワ(Perdanasiswa)と呼

ばれる食堂、文具店などが入った建物群の一角にある。

(2) デワン・バハサ・ダン・プスタカ

デワン・バハサ・ダン・プスタカ (Dewan Bahasa dan Pustaka (DBP)) にも専門書が多く揃っている。DBP の出版物を中心に扱っているが、古い本は在庫切れの場合が多い(ただし、古い本には割引がある)。所在地は、Jalan Dewan Bahasa, 50460 KL で、チャイナタウンから南東に 1 キロほど行ったところにあり、歩くにはやや遠い。ウェブサイト <http://www.dbp.gov.my/lamandbp/main.php> も参照されたい。

(3) プスタカ・アンタラの書店

トゥンク・アブドゥル・ラーマン通り周辺にはイスラム関連書籍が中心の小さな書店が多いが、その中で一番品揃えがよいのが出版社プスタカ・アンタラ(Pustaka Antara)の書店である。ここにはインドネシア関連の書籍も多い。所在地は Lot UG 10-13, Upper Ground Floor, Kompleks Wilayah, 2 Jalan Munshi Abdullah, 50100 KL で、ソゴウから東に 1 ブロック先のビル、コンプレクス・ウィラヤの地階にある。

(1) ~ (3)の書店の営業時間はオフィス・アワーに準じており、土曜午後、日曜・祝日は休みなので注意が必要である。

(4) 大型書店: 紀伊国屋書店と MPH

専門書も置いている大規模な一般向け書店と

して、紀伊国屋 (Kinokuniya) 書店と MPH が挙げられる。紀伊国屋は KLCC のスリア・ショッピングセンターの 4 階にある(日本語書籍のみ 2 階の伊勢丹内)。MPH は KL に複数の支店を持つが、最も大きい店舗はミッドバレー・ショッピングセンター (KL セントラルから KTM の Seremban 行きに乗り 1 駅。Klang 行きに乗らないよう注意) の地階にある。(以上坪井)

(5) 華語書店

マレーシアで出版された華語書籍や、台湾や香港、中国からの輸入書籍を最も効率的に入手できるのは、チャイナタウン周辺である。Putra LRT の Pasar Seni 駅を背にして Sultan 通りをまっすぐ進み、Ocean ショッピングセンターを過ぎた角を右に曲がると Panggong 通りに出る。この通りに大將書行がある(+60-(0)3-20266288、<http://www.mentor.com.my/>)。同書行はミッドバレー・ショッピングセンターの MPH にも支店を出している。Sultan 通りに戻り、左手に Petaling 通りを見ながらさらに 1 ブロック進み、Hang Jebat 通りと交差した辺りまで歩くと、商務印書館がある(+60-(0)3-20315368/2076)。Sultan 通りはここで左に折れる。Sultan 通りに沿って左折し、50m ほど歩くと中国(吉隆坡)上海書局がある(+60-(0)3-20784642)。さらに Hang Lekir 通りと交わる角まで進むと大衆書局がある(+60-(0)3-20700687/0689)。(篠崎)